

# KGA NEWS

2009春号  
2009年6月1日発行

No.99



関東ゴルフ連盟

KGA NEWS No.99

2009春号 2009年6月1日発行

## CONTENTS

### ■総会

魅力あるKGAに5つの基本方針 ..... 2

### ■特集1 月例競技

KGA月例競技が果たす役割

単なる競技ではなく、“ゴルフの精神”を継承し、  
ゴルファーの基本を磨く研鑽の場 ..... 6

### ■特集2 ジュニア育成関連

平成21年度 KGA春季ジュニア・ゴルフスクール

3月23日～4月1日全9会場・11クラスに782名が参加

—小学生対象の初級者クラスがいずれも定員オーバーの盛況 —— 10

石川遼プロ「石川遼ジュニア育成基金」

積立金をKGA他、全4団体に寄贈

—KGAジュニアスクールで学んだエチケット&マナー —— 14

### ■特集3 コース・レート査定の現場レポート

15年再査定の申請殺到で、

今年は80俱楽部以上が実施予定

—査定を円滑に進めるために、ご理解を! —— 16

### ■第57回 KGAグリーン研究講習会

ゴルフ場は大気の浄化・温暖化防止のエコ・パークです! ..... 20

### ■健康とゴルフ エージシュー9回記録

福田彰前理事にエージシューの秘訣を聞く

「具体的な目標を設定して取り組みなさい」 ..... 22

■関東ゴルフ連盟「マナーポスター」配布のお知らせ ..... 24

常務理事会・理事会 ..... 25

新規加盟俱楽部紹介 ..... 31

月例競技成績表 ..... 32



# 魅力あるKGAに 5つの基本方針

関東ゴルフ連盟・新理事長  
竹田 恒正（たけだ つねただ）

文／本條 強（KGA 広報委員会参与）  
写真／塚越 克一（KGA 広報委員）

KGAの新理事長に就任した竹田恒正氏は、「魅力あるKGA」をテーマに、ゴルフ界の活性化を図ろうと考えている。KGAは今や設立当初の俱楽部間の親睦だけを考えていればよいという時代ではなく、（財）日本ゴルフ協会と連携して加盟俱楽部と各都県のゴルフ振興に対しても責任ある組織となった。そんな新しい環境に対応する「魅力あるKGA」となるために、竹田理事長が考えていることを具体的にお聞きする。

この度関東ゴルフ連盟の理事長に就任しました竹田恒正です。就任時の挨拶で「魅力あるKGA」をテーマに掲げ、ゴルフ界の活性化を考えていきたいと申し上げました。そのために役員、分科委員の皆様と一緒に智恵を絞り、実現に移していくと思っております。そこで、まずはKGAが直面している重要な課題を5つ提示しました。ここでは、その内容を具体的にお話ししていきたいと思います。



第61回 通常総会会議



まず1番目の課題ですが、「競技に関する改善事項」として、具体的に5つのこと（A～E）を提案しました。これはKGAが競技団体である以上、競技がこれまでよりもさらに確りとした管理・運営の元で行なわれることであります。

A) 「競技の管理・運営能力が上がるよう、競技委員の資質向上のシステムをつくる」  
これは各競技のコースセッティングやJGAがすでに実施しているR&Aに基づくルールテストを競技委員は必ず受験してもらいルーリングの知識を向上し、全ての競技を行うための公正さを高め、運営・管理できるようにしていきたいと考えています。

B) 「俱楽部対抗競技のシステムを変更し、現在の参加俱楽部を350俱楽部から400俱楽部に増やすようにする」

KGAは1935年に、俱楽部間の親睦を図ろうと関東俱楽部対抗を開催したのが始まりです。それから74年が経ち、今では498俱楽部約20万人が加盟していますが、現在はそのうちの355俱楽部あまりが俱楽部対抗競技に参加しています。俱楽部が一番興味を持っている競技ですから、実際に大いに盛り上がっています。競技

は、各都県ブロック予選競技とそこで勝ち抜いた俱楽部による決勝競技がありますが、現在のシステムでは参加俱楽部数が355俱楽部で精一杯となっています。そこで、参加俱楽部が多くなった場合の決勝進出率の見直し等、対策も必要になってきます。参加俱楽部が増えることはKGAの発足意義を深めると共に加盟するメリットもありますので、状況を見ながら進めたいと存じます。

C) 「関東アマチュアゴルフ選手権のシステムの変更を行い、さらに出場枠を増やすようする」

関東アマは加盟俱楽部の会員にとって関心の高い競技で、予選9会場で1,200名あまりが試合に挑んでいます。毎年参加者が増加しており予選会場を増やすのですが、決勝に進出できる人数が増々少くなり、初めから参加を諦める人も多くなりますと、魅力が少ない競技になることもあります。今後は、準決勝を開催することにより活性化を図りたいと考えています。しかし、社会人の参加選手はさらに休暇を取らなければならぬとか、KGAとしては開催俱楽部を増やすなければならないなど、難題はあります。早急に対処をして行こうと考えています。

D) 「女子俱楽部対抗競技を設立する」

すでに多くの都県で女子俱楽部対抗競技が行なわれてますが、それをKGAの主催競技と



吉田前理事長（左）竹田新理事長（右）

して開催してもらいたいと多くの俱楽部から強い要望がありました。すでに競技を開催している都県では、KGAに未加盟の俱楽部が参加したり、新聞社主催で女子俱楽部対抗を実施している等、どのようにして足並みを揃えるかということが問題になりますが、平成22年度より実施できるように準備してまいりたいと存じます。

E) 「アンダーハンディキャップ選手権のさらなる普及を図り、『J-sys』の普及の展開を図る」

ゴルフは常にスクラッチで競うというスポーツではありません。老若男女が一緒になって競技を楽しめるのはハンディキャップという制度があるからです。ハンディキャップ競技はスクラッチ競技とは違い、全員に優勝のチャンスがありますので、大変面白い競技なのです。KGAでは平成7年より「アンダーハンディキャップ選手権」を催しているわけですが、まだ認知度が低く、参加人数が増えません。JGAでも「日本アンダーハンディキャップ競技」の準備に入りましたので、KGAとしても「J-sys」で公平なハンディを取得してもらい、多くの人に参加して欲しいと思っています。

次に2番目の課題ですが、「各都県での俱楽部代表者会議の充実」についてです。これは各都県から理事が選出され、各都県ごとに選出された理事を中心に俱楽部代表者会議を行うことに

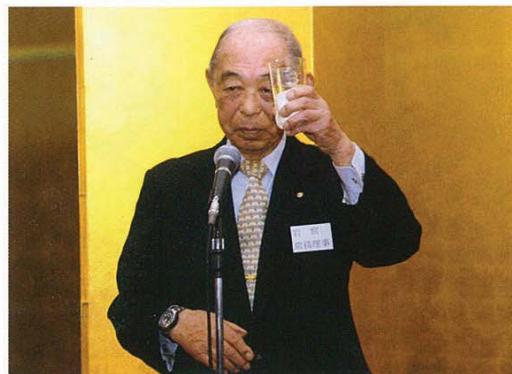


尾関前副理事長（左）、吉田前理事長（中）、竹田新理事長（前副理事長）右

なっていますが、開催方法にバラツキがある為、KGAで決議されたことを実行していただいたり、報告すべきこと等が各俱楽部にしっかりと伝わっていない状況が見受けられます。この事は、結果として各俱楽部からの意見がKGAに反映されない事に繋がるのです。俱楽部代表者会議は、各加盟俱楽部とKGAとの間を結びつける重要な架け橋ですので、会議のあり方から開催方法や内容の統一等について再考していくたいと考えています。

3番目の課題は「広報機能の強化」です。KGAの広報委員会では『KGAニュース』という広報誌を編集・発刊して各俱楽部に配布していますが、それだけでなく、新聞や雑誌などのマスコミ各社にも、KGAの活動を知らせていくといったことを行って行きたいと考えています。各加盟俱楽部から俱楽部代表者会議を通して提案をされた要望をKGAで検討して決議された内容をマスコミ各社へ発信していきたいと考えております。それによって、各加盟俱楽部を始め1都10県の一般のゴルファーにも広くKGAの活動を理解してもらい、認知していってもらいたいと思っています。

4番目の課題は「加盟俱楽部へのサービス機能の強化」です。KGAとして2つの提案を考えております。1つ目は「ゴルフ規則に関する講習会、ルールに関する質問に対する受け皿」で、



乾杯のあいさつをする岩宮常務理事

各俱楽部の競技委員会が疑問に思うことや解決しにくい事柄などを、KGAが積極的に対応し解消していくこうというものです。2つ目は「俱楽部内の競技委員会への講習会」ですが、これもKGAの競技委員会が、各俱楽部で競技委員会に対して競技の管理・運営の講習を行って、質の向上にお手伝いしようと考えています。これらは競技委員会だけでなく、エチケット・マナー、コース管理の問題などにも及びます。

最後に5番目の課題は、「各都県アマチュア団体との連絡強化し、JGAの流れに沿って対応を考えていく」ことです。これはJGAが(財)日本体育協会に復帰したことから、全ゴルファーのための公益活動を義務づけられたわけで、KGAではJGAの方針や活動を各俱楽部だけでなく全てのゴルファーに伝えていかなくてはなりません。そのためには、KGAとして各都県アマチュア団体との協力関係を深めて環境を整え、「J-sys」への登録を推進すると共に、加盟俱楽部とそれ以外のゴルファーを含めた競技者登録を進めるJGAに協力をして行おうと考えています。

以上の事柄ですが、これらを実現して行くには、KGAの各役員・分科委員はもとより、各都県に加盟する各俱楽部の皆様のご理解とご協力がなければできません。何卒、ご支援のほど、宜しくお願ひいたします。



総会後の懇親会

## 竹田新理事長 所信表明

昭和10年(1935年)8俱楽部により関東ゴルフ連盟が設立され、森村市左衛門氏(東京)が初代理事長に就任され、規約の制定、競技開催等具体的な活動が開始されました。まず、始まった競技は関東俱楽部対抗であり、続いて関東アマチュア選手権がはじまった次第です。それから74年、連盟は今や498俱楽部20万人のゴルファーが加盟する大組織に成長しました。

一方、連盟の上部団体であります日本ゴルフ協会は公益法人であり又、日本体育協会に復帰しました事から、全ゴルファーのための公益活動を義務づけられて居ります。

連盟は、基本的に会員、俱楽部による競技団体であり、(財)日本ゴルフ協会とは、方針が若干違っております。しかしながら、連盟設立の頃の俱楽部の親睦だけでは対応出来ないほど連盟をとりまく環境は変貌しており、日本ゴルフ協会の活動と連動してノンクラブメンバーのゴルファーに対しても便宜を図らなければならなくなっていました。

設立時の精神は忘れず一方では環境の変化に対応していかねばならない試練の時を迎えております。

このような中で私は「魅力あるKGA」をテーマに掲げゴルフ界の活性化を考えていきたいと思って居ります。

「魅力あるKGA」とは何か?これを実現する為には皆様と一緒に知恵を絞り、実現に移して

いきたいと思います。とりあえず、KGAが直面しています、本年度の課題として次の5つの重要項目をお示します。

- 競技団体として益々重要な競技に関する改善事項
  - 競技の管理・運営能力が上がるよう、競技委員の資質向上のシステムをつくる。
  - 俱楽部対抗競技のシステムの変更を行い参加俱楽部を350俱楽部から400俱楽部に増やせるようにする。
  - 関東アマチュアゴルフ選手権のシステムの変更を行い更に出場枠を増やせるようになる。
  - 女子俱楽部対抗競技を設立する。
  - アンダーハンディキャップ選手権の更なる普及を図る。

「J-sys」の更なる普及を展開する。

- 各都県での代表者会議の充実
- 広報機能の強化
- 加盟俱楽部へのサービス機能の強化

- ゴルフ規則に関する講習会、ルールに関する質問に対する受け皿
- 俱楽部内の競技委員会への講習会

- 各都県アマチュア団体との連絡強化し、JGAの流れに添って対応を考えていく。

連盟創立時の「親睦」という精神を忘れずに、5つの重要項目に対応し、これにより「魅力あるKGA」を実現したいと思います。

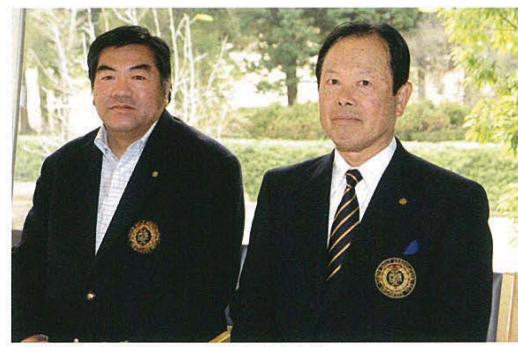
昨今の経済危機は、否応なしにゴルフ界にも影響が出てきて居ります。この難しい時期、新役員一丸となって関東ゴルフ連盟の繁栄の為に努力する所存で御座います。

皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

以上



ミーティングを進行する河本徳三郎 月例競技委員会副委員長（中）



主にKGA加盟の各俱楽部を代表するアマチュアゴルファーが参加して毎月開催される月例競技。一般には、「チャンピオンシップコースに上級者が集まり、腕を磨き合う競技」といった印象が持たれているようだ。しかし、実態は技量だけでなく、ゴルファーとしての姿勢や精神が研鑽される厳しい場である。その模様をレポートする。

#### ■KGA月例競技の目的

KGA月例競技は毎月、過去に公式競技の舞台となった俱楽部などで、KGA競技に準じたコースセッティングのもと、各俱楽部・団体を代表するアマチュアゴルファー（JGAハンディキャップが男子は3.4以下、女子は7.4以下）が参加して実施される競技である。

そもそもは関東を代表する精鋭アマが集い、技術の研鑽に努めた「ターフライダース」が発展し、今からちょうど40年前の昭和44年（1969年）にKGAが主催する「月例研修競技」として始まったもの。当初の目的はアマチュアゴルファーの強化に重きが置かれていた。というのも、当時はルール＆マナー、エチケットはもちろん、“ゴルフの精神”を重んじ、ハウス内でも洗練されたマナーで立ち居振る舞うことは、各選手が所属俱楽部で当然のこととして指導され、改めて目的に謳わなくてもマナー等は十分

に備わっていたからだ。

ところが、「その後、加盟俱楽部が増え、俱楽部によって運営の性格が様々で、幅広くなつた。伝統に厳格な俱楽部もあれば、ゆるやかな俱楽部もある。そうした俱楽部の代表選手の中には、ゴルフの技量は素晴らしいが、マナーなどゴルファーとしての基本が身についていない参加者もいました。でも、それはしょうがない。その俱楽部に、エチケットやマナーに厳格な、指導的な先輩がいるという間に、クラブチャンピオンなど上級者ほど周囲は注意しにくいというムードがありますから。しかし、そうした参加者が増え始めると、月例競技に対しても、『ただ上級者だけが集まって、チャンピオンシップコースで腕を磨いている競技』といった声が聞かれるようになったんです」と語るのは、月例競技委員会中野弘治委員長である。中野委員長は同競技が発足したときからの参加者で、KGAを代表するプレイヤーでありながら、さっそく月例競技委員の委員に任命され、以来40年近くも運営に携わることになった。

中野委員長によれば、KGA月例競技は実際にルール＆マナーの面でルーズな参加者が目立った時期があったそうだ。そこで10年ほど前から、運営の姿勢を改め、競技成績を競うではなく、ゴルファーとしての資質を磨くことを徹底するようになった。

もともとKGAの「月例競技参加規定」の冒頭には、その「目的」として、「本競技の目的は、一に模範的アマチュアゴルファーの育成にある。参加する者は、単に成績を競うだけでなく、競技を通じて、エチケット、マナー、ルールを研修し、技倅を研鑽し、良き指導者としてのプレイヤーを目指さなければならない」と謳っている。

そのために競技後の表彰式を兼ねたミーティングでは、毎回最後に、優勝者に前に出てきてもらい、「ゴルファーの基本」を謳った書面を

大きな声で読み上げてもらっている。そこには次のような文言が書かれてある。

一、コースをいたわり、他人に迷惑を掛けないことがエチケット、マナーの基本。

二、ボールが打てて当たり前。ルールが分かって半人前。エチケット、マナーが身について一人前。

三、気配り、目配り、段取り良いナイスプレーになろう。

四、ゴルフとは他人に迷惑をかけない。自分のプレーした跡を残さない（目土の励行、ボールマークの修復）。“すべて自分の責任”的精神を基盤としたスポーツである

なお、このミーティングは、参加者全員に出席を義務づけている。そして、その会場では飲酒はもちろん、喫煙も禁じている。ミーティングまでも、研修の場であるからだ。

#### ■厳格な指導の内容

KGA月例競技ではドレスコードを設けてい る。といっても、多くの俱楽部では当たり前の内容であり、KGA競技など公式の競技に出場



集計を行う月例競技委員（上）  
ミーティング風景（下）

する際にも、当然守らなければならないマナーといえるものである。

ドレスコードの主な内容は、(1) クラブハウス入場時およびミーティングは上着を着用すること。(2) 運動靴、ゴルフシューズ、ミュール(バックベルトのないもの)での入場は厳禁とする。他。

中野委員長は「模範的アマチュアゴルファーの育成」という主旨を徹底し、このドレスコードについても厳しい姿勢を隠さない。

「ゴルフの上手下手は関係ありません。服装に限らず、マナー違反があればミーティングできちんと注意します。そりや恥ずかしいでしょう。でも、そうすれば2度と同じマナー違反は繰り返さないし、他の参加者にもいい教訓となるはず」

また、ミーティングでは月例競技委員から、気がついた注意点がその場で指摘される。3月の月例競技会(19日、大利根カントリークラブ)では、たまたまある組に欠場者が2名発生したため、河本徳三朗副委員長がオブザーバーの同伴競技者として加わった。そして、競技参加者として目についた「グリーン上のボールマークが余りにも修復されていない」ことを厳しい口調で注意した。

「グリーンはゴルフコースの命です。月例競技の会場はどこも、ここに合わせてハードなコースセッティングをして下さっています。にもかかわらず、月例が終わったあとは、目土やボールマークなど、コースの修復が大変だとなったら、将来、このような素晴らしいコースが提供されることになります。あとに続く世代にこの月例競技を続けてあげるために、コースの修復はきちんと行ってください」(河本副委員長)

もちろん、参加者にもたらされるのは、こうしたマナー違反などの注意点だけではない。競技者のレベルアップにつながる競技情報(間違えやすいルール問題やルール改訂など)もミー

ティングの席上で紹介される。例えば、2月の月例競技では「ワンボール条件」のローカルルールが、KGA競技でも今後は不採用となること。3月の月例競技では、3月13日に(財)日本ゴルフ協会から発表されたばかりの「樹木の巻物施設のローカルルール」の見直しについて、その内容とKGA競技では今度どのように実施していくのかが紹介された(詳しい内容は、9ページ参照)。

また、ミーティング後には、月例競技委員にルール&マナーに関する質問をする姿が見られた。ゴルファーとしてのレベルアップを図るために、こうした質問を自由に、気がねなくできるのも、月例競技の良さといえる。

#### ■ “ゴルフの精神”を伝える場

「ここに参加する選手は、それぞれの俱乐部の代表であり、良き指導者になってもらわなければならぬ選手です。彼らがここで学んだ競技運営やゴルファーとしての姿勢を、それぞれの俱乐部に戻って後輩に教えるとか、俱乐部競技で示してもらうことで、“ゴルフの精神”は多くのゴルファーに浸透していくと思って、厳しくやっています。私は、この月例競技で育ててもらったという思いがあります。その恩返しのつもりで、今後も月例の伝統は、次の世代にきちんと伝えていきたい」(中野委員長)

こうした厳格な運営のお陰だろう、KGAの選手のエチケット&マナー、ハウス内での洗練された立ち居振る舞いは、他地区の連盟関係者や選手から高く評価されているという。そのため、他地区連盟でも同様の主旨の月例競技を開催すべく、KGA月例競技に実際に参加しての視察が行われている。

“ゴルフの精神”を守り、次世代に正しく伝えていくことは、KGAに課せられた一つの役割といえる。その役割を、競技会という場を通じて果たしているのが、KGA月例競技といつていいだろう。

## 「樹木の巻物施設のローカルルール」の見直しについて

(財)日本ゴルフ協会ではこれまで必要に応じて、樹木の巻物施設に関して次のようなローカルルールを採用してきました。

「樹木保護のための巻物施設(巻網など)は樹木の一部とみなす。ただし、樹木の巻物にはさまた球は、罰なしに、その真下の地点から1クラブレンジス以内で、しかもホールに近づかない所にドロップすることができる。取り出した球はふくことができる。その球をすぐには取り戻せない場合は、別の球に取り替えることができる。このローカルルールの違反の罰は、2打。」

この度、(財)日本ゴルフ協会規則委員会において、



上記ローカルルールを見直しましたと

ろ、次の理由から、このローカルルールを今後は採用しないことを決定いたしました。

①樹木の巻物施設を樹木の一部とみなしながらも、罰なしの救済を認めていることは矛盾する。

②木の枝に乗った球に対しては罰なしの救済がなく、樹木の一部とみなした巻物施設に挟まつた球に対して罰なしの救済があることは公正ではない。

③巻物施設を定義どおり「障害物」として扱いたくない場合は、コースと不可分の部分とすることのほうが単純であり、プレーヤーにとても分かりやすい。

今後、樹木の巻物施設に関してローカルルールを制定する場合の(財)日本ゴルフ協会の指針を下記にまとめましたのでご参照ください。

なお、ローカルルールの制定は各競技の委員会の決定事項であり、定義どおり「障害物」として扱うか、コースと不可分の部分とするローカルルールを採用するかは各委員会によって判断されるものでありますことをご留意下さい。

## 樹木の巻物施設の取り扱いに関する指針

(財)日本ゴルフ協会 規則委員会

競技を運営する委員会は、コースに巻物施設があり、プレーに影響を与えると考えた場合には、できる限り事前に撤去するか、また球が挟まらないよう設置することを努力すべきである。以下は、このような措置をとることができない場合についての当委員会の指針である。

委員会が巻物施設を定義どおりの「障害物」として扱った場合、規則24-2b例外を適用すべきかどうかの判断が困難となる可能性もあり、規則上の紛議が生じる可能性がある。

委員会がこのような紛議を避けるために、樹木の巻物施設を定義「障害物」ではなく、木の一部とみなしたいと考える場合は、次のようなローカルルールの制定を勧める。

「樹木の巻物施設はコースと不可分の部分とする。」「○番ホールの樹木の巻物施設はコースと不可分の部分とする。」

「○番ホールの樹木の巻物施設(鳥の巣箱を含む)はコースと不可分の部分とする。」

巻物施設をコースと不可分の部分として扱うローカルルールを制定した場合、巻物施設はもはや「障害物」ではないので、意図するスイング区域、スタンスなどに対して障害が生じても救済を受けることはできない。また、その巻物施設に球が挟まつた場合、罰なしに救済を受けることはできず、打てないのであればアンプレイヤブルの処置(規則28)をとることになる。

以上

平成21年度 KGA  
春季ジュニア・ゴルフスクール

**3月23日～4月1日**  
**全9会場・11クラスに782名が参加**

—小学生対象の初級者クラスがいずれも定員オーバーの盛況—

写真／片山 晴美 (KGA 広報委員会副委員長) 塚越 克一・増田 政 (KGA 広報委員)



「大きな声で挨拶をしましょう」とジュニアに話す大監委員長

平成21年度KGA春季ジュニア・ゴルフスクールは、3月23日～4月1日の期間に、全9会場で対象者別に11クラスが開催された。その中から、3月25日、神奈川県川崎市の丸子橋ゴルフ練習場と隣接の多摩川ゴルフ俱楽部（ショートコース）で開催された、小学生の初級者を対象に実施されたスクールを中心に、今年の模様を紹介する。

今回のジュニア・ゴルフスクールは、対象者別に11クラスが設けられた。ゴルフの実力別では、初級者対象が4クラス、中・上級者対象が7クラス。年齢別では、小学生対象が4クラス、中・高校生対象が7クラスとなった。このうち、小学生対象のクラスは、3月23日の茨城ゴルフ倶楽部で開催された小学生の中・上級者対象のスクールを除き、残る3クラスはいずれも定員を大幅に上回る申し込みが寄せられた。若洲ゴルフリンクスでの小学生の中・上級者対象は定員120名のところ、32名も上回る152名が申し込み。同25日の丸子橋ゴルフ練習場と多摩川ゴルフ倶楽部のスクールには定員48人に対し77名。同31日のハイランドセンターでは定員52名に79名の申し込みがあった。

また、実力別の初級者対象の4クラスも、いずれも定員を上回る人気となった。

<若洲ゴルフリンクス> 3月24日(火) 小学生 中・上級者スクール

朝7:30分の受付開始には長蛇の列

今日は、お父さん、お母さんがバック担ぎ！  
ガンバルぞー！！

スタート前にジュニア委員より説明と注意を受ける

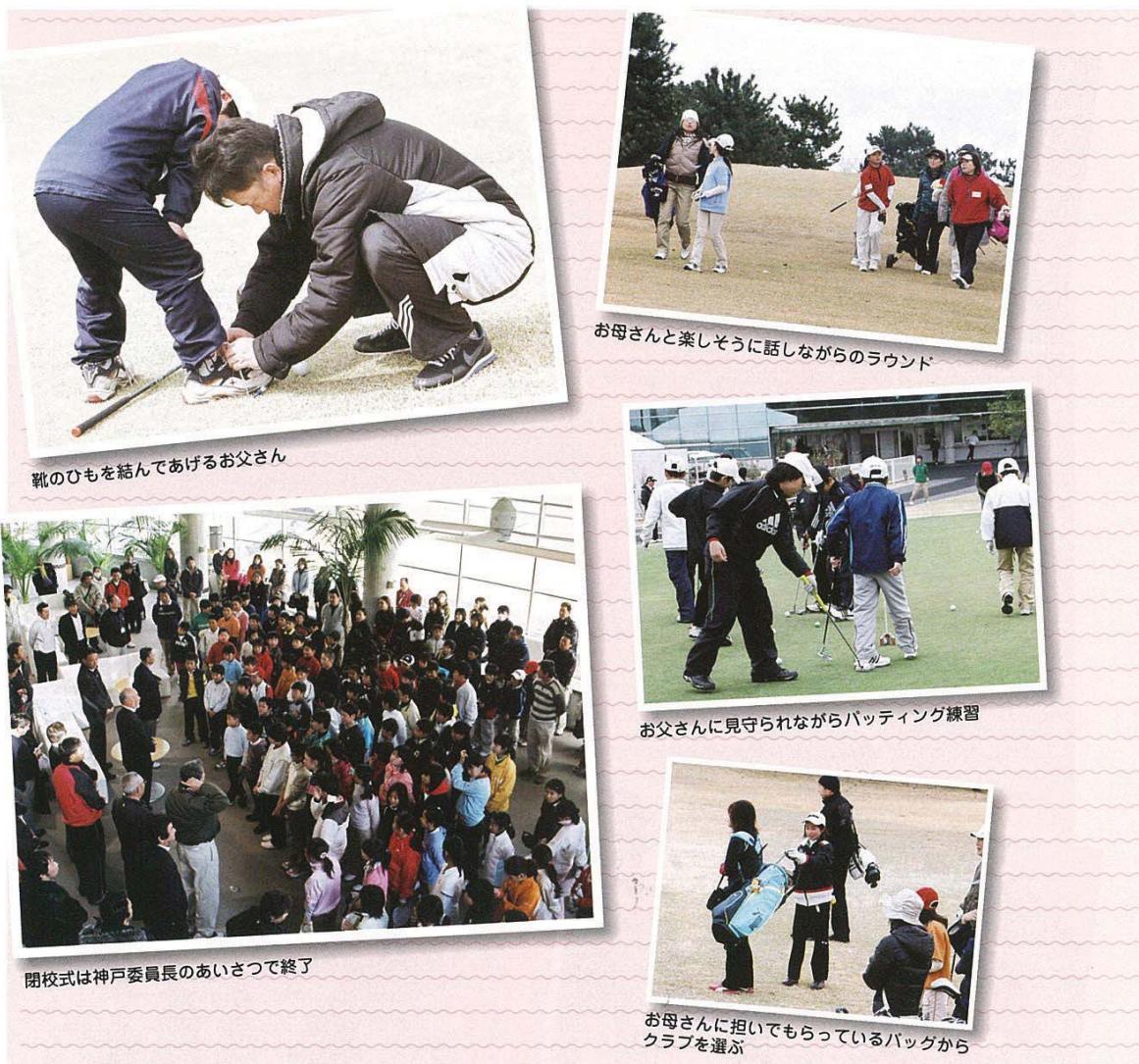
女子プロよりしっかりレッスンを受ける

やさしいジュニア委員の話を聞く

かつては、中・高校生の参加者が圧倒的に多かったこのジュニア・ゴルフスクールも、徐々に小学生の割合が増えている。ゴルフがより小さな年齢層から人気を獲得している証なのだろう。

その小学生対象クラスのひとつ、25日の若洲ゴルフリンクスのスクールは、レッスン開始を待たずして空から冷たい雨が落ちてくるあいにくの天気。それでも参加した小学生のジュニア

## &lt;若洲ゴルフリンクス&gt; 3月24日(火) 小学生 中・上級者スクール



は、皆元気。大好きなゴルフができるので、雨も寒さも関係ないといった様子だった。もっとも指導する側にとっては、子供たちがゴルフの面白さに夢中になる余り、自分の体調の変化に気付かないという怖さがある。そのため、小学生を教える際には、「きめ細かい観察と臨機応変の対応が大事なんです」と口を揃える。

また、ゴルフはプレー自体が面白いため、ついその上達に夢中になり、ルールやマナー、エチケットの習得がおろそかになるジュニアも少

なくない。そこで、この日のスクールでは開会式でのジュニアへの諸注意のあと、引率の保護者にはそのまま会場に残ってもらい、ジュニア育成委員会の大鷲俊朗委員長が保護者に「お願い」を語った。

「皆さんのお子さんが7歳であろうと10歳であろうと、ゴルフ場に行ってゴルフをされるときは、ひとりのゴルファーとして扱われます。ルールもマナーも、子供だからと許されるものではありません。ゴルフ場では総理大臣もジュニア

## 丸子橋ゴルフ練習場／多摩川ゴルフ倶楽部 3月25日(水) 小学生 初級者スクール



も、同じ一人のゴルファーとして、自分の責任でプレーしなければなりません。ですから、私は子供にも、指導すべきことは厳しく指導します。ところが、保護者の皆さんのがお子さんに対して、スコアが良くなることばかりに夢中になって、大事なエチケット、マナーとか、協調性、責任感といった面をおろそかにしがちなんです。そこで皆さんにお願いです。子供たちがゴルフを上手くなろうと努力することはいいことです。でも、そのことばかりに夢中になつて

いるときには、ブレーキをかけてやってください。そして、大事なことを忘れていないか、見てあげてください。よろしくお願ひします」

KGAジュニア・ゴルフスクールは、どこも子供たちの届託のない笑顔があふれる。その笑顔、そしてジュニアたちがすぐに友達になっていく様子に、改めてゴルフの素晴らしさを見る。しかし、同スクールには、子供たちにゴルフを好きになってもらうと同時に、ゴルフを正しく伝えるという目的があることを再確認した。

石川遼  
プロ

## 「石川遼ジュニア育成基金」 積立金をKGA他、全4団体に寄贈

—KGA ジュニアスクールで学んだエチケット&マナー—



大鷲ジュニア育成委員長（左）石川遼プロ（中）吉田前理事長（右）

1月25日、KGAジュニアゴルフスクールのOBである石川遼プロは、自宅近くに完成させた私設練習場を報道陣に公開後、同所のトレンジング施設内で「石川遼ジュニア育成基金」として昨年積み立てた総額306万円を、KGAを始めとするジュニア競技主催団体（全4団体）へ寄贈する贈呈式を行った。

### —石川遼プロ挨拶

「本当にありがとうございました。今は自分の妹、弟がお世話になっております。小学校3年生の頃、ゴルフを始めたばかりの頃の夏休みにKGAのジュニアゴルフスクールがあるということを父が他のゴルフの友達から聞き、それなら是非参加させて頂こうということで、KGA様のジュニアスクールに初めて参加しました。そのお陰で関東中にゴルフの友達ができ

ました。それまで僕と同じ歳、同世代でゴルフをやっている子は本当にいなく、周りの子に僕がゴルフをやっていることを、ちょっと言い辛い頃だったので、関東中に友達ができたことによって嬉しさとともに、僕と同じ歳でゴルフをやっている子がこんなにいるんだという驚きがありました。そこで教わったことは、技術的なことはほとんどありませんでした。エチケット&マナーに始まり、エチケット&マナーに終わるということを、毎回毎回、同じことを言わされました。僕たちはその意味が余り分からないま、ずっと話を聞いていました。ただ、大鷲（俊朗）様が挨拶をされるときは、いつもトイレに置いてあるタオルを持って、「なぜ私がこのタオルを持っているか、皆分かるか？自分が洗面台を使って、タオルで手を拭いたら、必ずそのタオルで洗面台を拭いて、次の人が使いやすい

状態にしておくことが大事だ！！」ということを参加するたびに言われました。ずっと言われ続けたので、ジュニアたちもその意味が本当に理解できないまま実践してきました。その大切さを今は本当に強く感じていますし、ゴルフはやはりエチケット&マナーに始まり、エチケット&マナーに終わるということを、最近理解できるようになりました。この気持を忘れずに、僕は頑張っていきたいと思いますし、是非、妹・弟の世代の皆さんにも、エチケット&マナーの大切さを学んでいってもらいたいと思います。これからもよろしくお願ひいたします。」

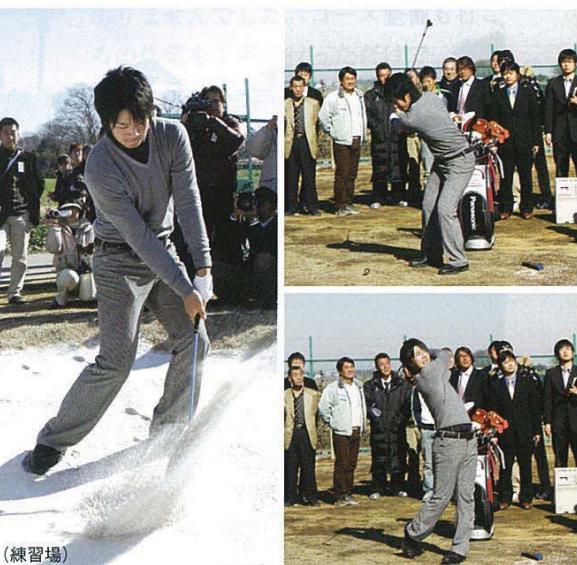
### —吉田友明理事長挨拶

「今日は練習場のオープン、おめでとうございます。また、このような寄贈をしていただき本当にありがとうございます。今、お話をされたように、関東ゴルフ連盟のジュニアスクールで大鷲さんからエチケット&マナーをいろいろと学んでいただいて、本当にありがとうございます。お父さん（勝美氏）がお書きになった記事の中にも、今日の遼くんがあるのは、まずエチケット&マナーを教えていただいた結果だとありました。私も理事長として、大鷲（ジュニア育成）委員長には、『ジュニアには、ボールを打つことが面白いということが分かったならば、必ずエチケット&マナーを重点的に教えてください。』とお願いしているのですが、大鷲委員長はそのとおりにやって下さったようで、今の遼くんのタオルの話を聞いたら、僕は嬉しくでしょう

がありません。それから、お父様。先ほど、（練習施設のお披露目の挨拶で）『ゴルフで得たものはゴルフに返せ。』とおっしゃっておられま

したが、あの言葉は私もアマチュアの決勝競技の挨拶でよく使う言葉です。アマチュアの場合は、ゴルファーとしてのエチケット&マナーを社会に、ひと様に還元しなさいということですが、遼くんの場合はもうプロです。今日はプロとして、このような形でゴルフにお返しいただきました。本当にありがとうございました。」

石川プロはプロ入りを機に、昨年“ジュニア育成基金”を設立、ツアートーナメントでバーディーを奪うごとに1万円、同イーグルで2万円を積み立てる活動を始めた。その結果、昨年はバーディー292個、イーグル7個を記録し、306万円を基金に積み立てることができた。



この日は、その積立金を石川プロがジュニア時代に参加したKGAを始めとする全4団体に寄贈する贈呈式を行った。

贈呈式にはKGAから吉田友明理事長と大鷲俊朗ジュニア育成委員長が出席。その他、「NPO法人日本ジュニアゴルフ協会」「全国小学校ゴルフ選手権 横尾要カップ（報知新聞社）」「ゴルフダイジェスト社ジュニアカップ」の各代表とともに、石川プロより目録が贈呈された。

# 15年再査定の申請殺到で、 今年は80倶楽部以上が実施予定

—査定を円滑に進めるために、ご理解を！—



IPのフラッグはピンフラッグを活用している

平成12年（2000年）からコース・レートの認定期間が15年と規定されたことに従い、このところKGAには前回査定から15年を経過した倶楽部より「再査定」の申請が殺到している。今年は既に日程が決まっている倶楽部だけでも62倶楽部。他に、実施日が未定の倶楽部が20余ほど待機している。査定を行うコース・レート委員は、担当倶楽部を手分けして訪問しているが、それでも多忙を極める。3月11日、千葉カントリークラブ川間コースで実施されたコース・レート査定の模様から、その実際の流れをレポート。今後、査定が行われる倶楽部の参考にしたい。

千葉カントリークラブ川間コースは、昨年、全27ホールのコース改造が完了。それを機に、昭和53年（1978年）以来の再査定を今回行うことになった。KGAでは現在26名（うち女子委員は6名）のコース・レート査定委員がいるが、18ホールのコースでは基本的に新規査定倶楽部には12名、再査定倶楽部には4名の委員を派遣している。千葉カントリークラブ川間コースは27ホールのため、今回は岡田光正委員長を始め、計7名の委員が出席した。

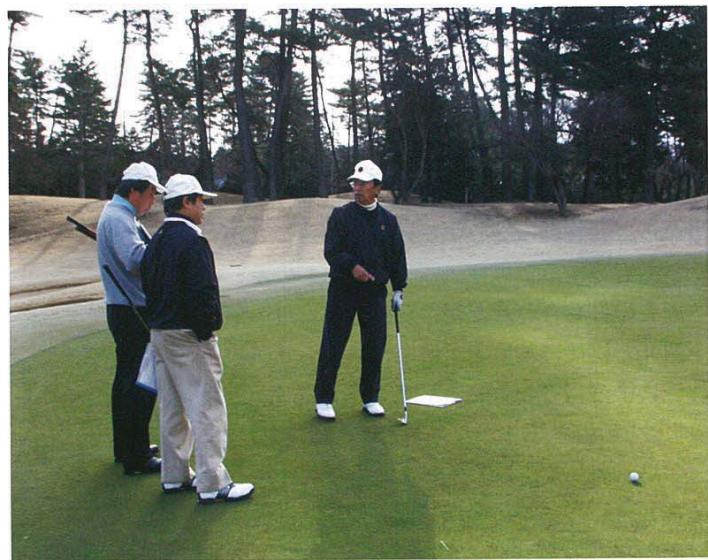
7名は早朝7時までに、クラブハウス内に用意されたミーティングルームに



各ティーインググラウンドの距離の差を歩測し図面の数値を確認

集合。倶楽部から提出された書類（実測図、実測ヤーデージ表）に目を通しながら、7時10分にミーティングを開始した。冒頭、岡田委員長は「ここは再査定となりますので、改造を行っていますので、実質的に新規査定と考え、丹念にしっかりと査定してください」と挨拶した。

査定は、18ホールの場合、基本的に委員は8時（一般プレーヤーのスタート前）にアウトからスタート。1時間30分ほどで9ホールの査定を終えるため、インの一般プレーヤーのスタートは8時30分まで。その後は、委員がスタートするのを待つ。27ホールの千葉カントリークラブ川間コースでは、委員は2組に分かれ、それぞれ東→西コース、南→西コースと18ホールずつを査定した。なお、査定には倶楽部側の委員、職員等の同行の必要はないが、進行を円滑にするためキャディーを1組に2名付けてもらう。



グリーンは大きさ、起伏そして査定当日の速さ、コンパクション等を調べて、査定終了後、通常の状態を確認し、難易度を数値化する

その他、倶楽部側には査定に当たって、各ティーインググラウンドの中央にマークを置くこと（基準となるバック・ティーのマーク（基点）は査定の基準となるため、腐食しない杭を使用）、フェアウェイにはバック・ティーのマークから250ヤードのフェアウェイ中央基点（第1IP）にフラッグを立てること等、細かな準備が要請されるが、その内容は事前に「コース・レート査定指示書」で通達される。

「うちは幸い、改造を終えたばかりなので、正確な図面が揃っていましたから、準備に大変だったということはありませんでした。コース整備も日ごろの作業を丁寧に行っただけで、特別なことはしていません。ありのままを査定していただければ……。その数値を楽しみにしています」（千葉CC管理部 武藤和良部長）

査定は順調に終わり、各委員は11時45分には着替えを済ませて、先のミーティングルームに集合した。そこで昼食を摂りながら打ち合わせ



査定委員を代表して挨拶する岡田委員長  
挨拶の後千葉CC出席者と活発な意見交換が行われた

を行い、次回（4月22日）のコース・レート委員会に諮る数値を算出、決定した。

その後、12時20分からは俱楽部側の担当者7名（基本的にはハンディキャップ委員、コース委員、支配人、グリーンキーパーの出席が求められる）を交えての打ち合わせに移ったが、まず岡田委員長からは次のような挨拶がなされた。

「ご承知のように、コース・レートの数値はコースのグレードを示すものではありません。あくまでもJGAハンディキャップを算出するための基礎数値でございます。その点をご理解いただきたいと思います」

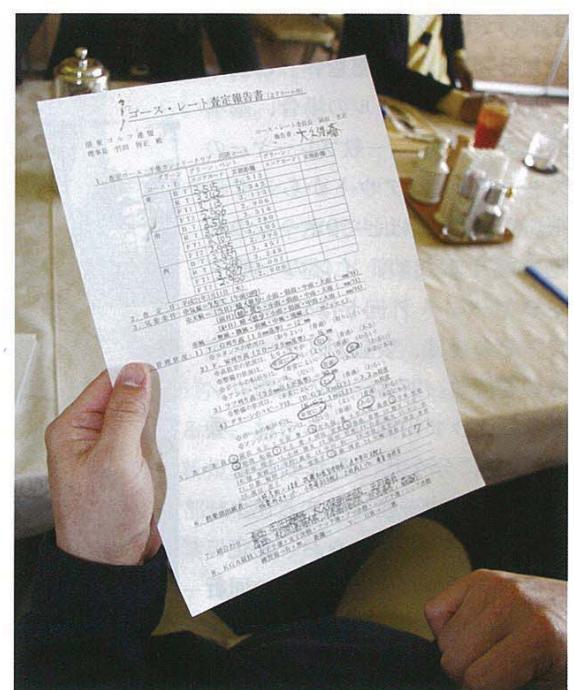
この基本が理解されれば、俱楽部側も査定に当たって、特別に腐心する必要のないことがわかつてもらえると思う。

両者の打ち合わせだが、双方の出席者の簡単な紹介と挨拶に続いて、俱楽部側から「気象条件等による当日のコース状態の補足説明（普段の状態との相違点）」がなされた。それによれば、「グリーンは通常よりもやや早めだが、硬さは通常と同じ」とのことだった。

その後、質疑応答に移った。そこでは査定委員側からコースに関する印象が語られた他、

コース運営に関する簡単な質問と確認があつただけで、俱楽部側からは質問・疑問はなかつた。そして、最後に岡田委員長が「前回の査定は昭和53年（1978年）ですが、当時と現在では査定方法がだいぶ違っています。難易度を細かく査定するようになっています。ですから、今回は新規の査定のつもりで詳しく見させてもらいました」と改めて査定に臨んだ査定委員の姿勢を説明して、打ち合わせは15分ほどで終了した。

同俱楽部側のメンバー・スタッフにとっては実質的に初のコース・レート査定も——多少の緊張感はあっても——戸惑う様子はまったく見られない、スムーズな査定だった。



査定の報告書を作成し、詳細を報告する

## 実測図面作成について

宇都宮カンツリークラブ 柴田支配人談

コース・レート査定に関して、事務局に多く寄せられる質問の一つに図面の作成がある。

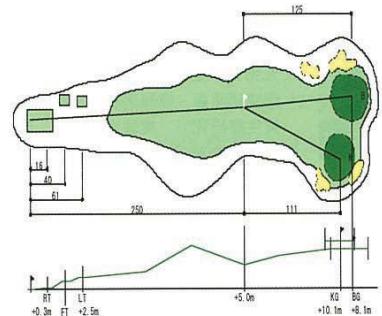
今回の千葉CCは、改造直後で詳細な図面が揃っていないため、査定に必要な図面作成に苦労はなかったそうだが、昨年、同じく再査定を行った栃木県の宇都宮カンツリークラブを取材したところ、同クラブの柴田勇一支配人は「査定用図面を新規に作成する必要があったので、地元業者に依頼したところ、大変な費用と時間がかかる見積もりが出され、査定実施を延期せざるを得ない状況になってしましました。そこで、理事会にその報告をしましたら、俱楽部役員の関連会社で、図面作成の詳細な内容が解れば、KGAの指定する図面を廉価で作成していただけたことになり、無事査定を終了することができました」と内情を明かしてくれた。

KGAが求めるパー3、4、5の各ホールの作成図面は下記の通りだが、「18ホールが基本通りのホールであれば問題はなかったのですが、実は各ポイントの高低差が測量できなかったり、直線で250ヤードのIPが設定できないドッグレッグがあったり、同じくIPが池の中だったり、パー5の第2IPがグリーン上だったり……。作成には苦慮するところがありました。そのため、何回も何回もKGA事務局に作成の基本を

電話で確認した結果、図面には現れない、ホールごとの図面作成の難しさが理解でき、図面作成のノウハウが得できました」と柴田支配人は語る。

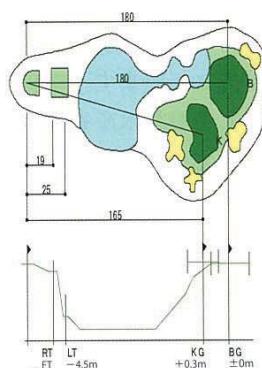
「もし、図面作成に苦慮されている俱楽部があれば、何でもご相談下さい。よろしければ専門の業者を紹介します。こういうご時勢ですから、相見積もりを行って、少しでも経費がかからない方法を検討してみては？」と笑顔で協力を申し出てくれた。

正確性が求められる図面だけに、その作成に頭を痛める俱楽部もあるはず。しかし、多くの俱楽部で似たような経験をしている。多方面に相談することをお勧めしたい。



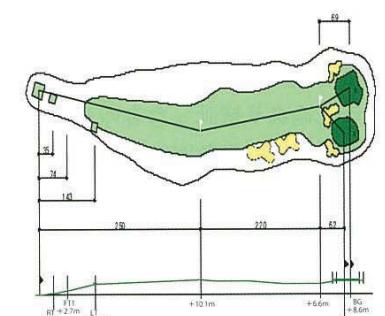
北コース NO.5 Par4

	Back	Regular	Front 1	Front 2
ペントG	375	359 -16	335 -40	314 -61
高麗 G	361	345 -16	321 -40	300 -61



南コース NO.8 Par3

	Back	Regular	Front 1	Front 2
ペントG	180	161 -19	161 -19	155 -25
高麗 G	165	146 -19	146 -19	140 -25



南コース NO.1 Par5

	Back	Regular	Front 1	Front 2
ペントG	539	504 -35	465 -74	396 -143
高麗 G	532	497 -35	458 -74	386 -143

**第57回KGAグリーン研究講習会**

# ゴルフ場は大気の 浄化・温暖化防止のエコ・パークです！

写真／増田 收 (KGA広報委員) 文／堺 莞太郎

『第57回 KGA グリーン研究講習会』(1月26日)に於いて、ゴルフ場の地球温暖化防止効果に関する研究が、九州大学農学部の縣和一名誉教授により発表されました。

ゴルフ場はかつて「農薬漬け」の汚名も着せられましたが、農耕地に比べれば農薬汚染は極めて小さく、ゴルフ場は樹林と芝地、そして調整池が点在する健全な緑地生態系です。

KGAでは「ゴルフ場は環境貢献エコ・パーク」というチラシをゴルファーに配布し、ゴルフ場が環境貢献に役立つ空間となるよう、環境対策に取り組んでいます。

## プロフィール



縣 和一 (あがた わいち)  
九州大学名誉教授。(財)西日本グリーン研究所所長、専務理事。植物の光合成、物質生産研究で、農耕地、草地、芝地、砂漠の植物を対象に幅広く研究し、78年に日本草地学会賞を受賞。97年からはベントグリーンにおけるアントシアニン斑形成要因の解析とその軽減策の研究に取り組む。



加治佐博文 (かじさ ひろふみ)  
広島農業短期大学（現：広島県立大学）卒業。八千代CC、セブンミリオンCC、大相模カントリークラブを経て、現在、日高カントリークラブのグリーンキーパー。

縣先生の研究は、緑を育成管理しながらスポーツの場を提供しているゴルフ場が、大気浄化と地球温暖化防止に、大きく寄与している実態を膨大なデータにより検証したものです。

日本のゴルフ場の総数2400余で生産される有機物（バイオマス）の純生産量は、芝地が121万t、林地が192万tで合計313万t。植物により固定（吸収）された二酸化炭素量は推定で460万t、そして酸素発生量は336万t、水蒸気として蒸発散された水分量が11.7億tです。ちなみにゴルフ場が放出する二酸化炭素量は、動力の燃料消費量、電機やガスなどの光熱量、ゴルファーと従業員の呼吸まで計算されています。



なんとゴルフ場は、年間230万世帯の電気消費で発生する二酸化炭素を吸収し、1225万人が必要とする酸素を出している計算になります。さらに驚くなれ、日本国民の必要とする酸素の10分の1を、ゴルフ場が提供しているのです。水の蒸発散量の年間11.7億tは、年間降雨量の約3割にも相当します。

こうしたデータを知ることにより、ゴルファーもゴルフ場従業員も、いっそう自信と誇りと責任を持って、ゴルフ場と接することができるようになるでしょう。詳細につきましては、現在配布中の「ゴルフ場は環境貢献エコ・パーク」のチラシで解説しています。

国の施策として農林水産省は、毎年20万haの森林を手入れして、環境改善機能を高める計画を立て、予算として毎年500億円が税金から計上されています。ゴルフ場の場合は、全国で約30万haの広大な緑地が、毎年ゴルファーのプレー費によって賄われ、きめ細かい植生管理がなされているのです。

ここで植物の緑葉が営む光合成について、おさらいしましょう。植物は酸素を取り込んで、二酸化炭素を放出しています。大気中の二酸化炭素 ( $\text{CO}_2$ ) を素材とし、太陽エネルギーで水

を分解して水素を取り出し、その水素で二酸化炭素を還元して炭水化物を产生し、水の分解から発生した酸素 ( $\text{O}_2$ ) を放出する生理作用が光合成です。

この過程で大気中の $\text{CO}_2$ は減少し、 $\text{O}_2$ が増えるので、緑が存在する限り空気が浄化されます。同時に $\text{CO}_2$ の減少は、地球の温暖化防止に寄与することになります。さらに光合成過程を含めて植物は成長する際、水分を根から吸収し、蒸散することで必要な養水分を細胞組織に供給するシステムを確立しています。

植物による大気の冷却については、都市部において特に注目されています。真夏のコンクリートジャングルはまさにヒートアイランドですが、そこに緑（植物）があれば、多大な冷却効果が見込めるというわけです。都市近郊のゴルフ場は、管理された緑地帯として、快適な都市生活には欠かせない存在なのです。

ゴルフ場は一般の公園緑地の何十倍もの面積規模で、完全な生態系を構成しています。しかも外部から遮断された環境の下にある在来種は、外来種の進入に怯えことなく、保全されるわけです。これはゴルフ場の大きなメリットです。ゴルフ場には、失われつつある里山の自然が残されています。これこそ小動物などのためにも、守るべき環境と言えます。

自然環境の保護と、自然を手をつけずに放置するのとは大違いです。自然状態で密生した森林を放置すると、日当たりや風通しが悪くなるので樹木や林床植物の成長が貧弱になり、豪雨による自然災害を引き起こす原因にもなります。また地球温暖化の原因となる二酸化炭素の吸収、酸素の発生による大気の浄化、蒸発散低下による気象改善機能の低下がおこるので、自然のままの状態がよいというのを間違っているのです。

その点、ゴルフ場の広大な100ha規模の芝地と樹林地は手入れが行き届いているため、大気



の浄化、蒸散、保水が健全で防災的役割を担っています。まさにエコ・パークなのです。

## 日高カントリークラブに於ける 環境問題への取り組み

ゴルフ場の貢献度に関する実態調査や試算は、これまでほとんどありませんでした。縣先生は関連する各種資料を参考にして、八王子カントリークラブ、日高カントリークラブから依頼があった試算結果を、両俱楽部に報告しています。日高カントリークラブの加治佐キーパーは縣先生の試算結果を活用し、現場でのエコ対策にして『KGAグリーン研究講習会』で講演しました。

具体的には肥料、農薬の使用量削減や太陽電池の導入、重油から他の燃料への切り替え、廃棄物の削減など努力すれば、従来より二酸化炭素の排出を少なくすることができるとの提案です。

廃棄物削減のキーワードはスリーアール(3R)と呼ばれます。リデュース=使用量を減らす、リユース=もう一度使う、リサイクル=資源として再生利用すること。とりわけゴルフ場内で発生した緑化廃棄物は、全量を資源としてフィードバックするリサイクル・システムの構築を大きな目標としています。芝カスや落葉は堆肥化でリサイクルし、肥料の使用量の削減でリデュースに結びつけ、間伐材や剪定枝は木炭やチップにして固形燃料や製紙原料としてリユースする。この他、給湯システムの燃料転換で $\text{CO}_2$ 排出量の削減にも努めています。ゴルフ場の環境への取り組み事例として、極めて意義深い講演でした。

## エージシート9回記録

福田彰前理事にエージシートの秘訣を聞く

# 「具体的な目標を設定して取り組みなさい」

所属の我孫子ゴルフ倶楽部の倶楽部競技、プライベート等合わせて、これまでエージシートを9回も達成しているKGAの福田彰前理事（元理事長）に、その秘訣を尋ね、後進へのアドバイスを頂いた。それは我孫子ゴルフ倶楽部で競技ゴルフに打ち込んだ福田前理事が到達した思いだけに、常人には簡単に真似のできる事ではないだろうが、少しでも近付くヒントにはなるはずだ。

——福田さんが初めてエージシートを出されたのは何歳のときですか？

福田 81歳のときだね。平成10年（1998年）です。エージシートは不思議なものですね。私よりよっぽど球筋のいい人で、熱心にプレーされた人でも、とうとう取れなかったり……。私も、70代のときは、フロント9はだいたい30台で回れるんですよ。ほとんど毎週と言ってもいいくらい、前半はエージシートを出せそうになる。ところが、バック9は45がいいほう（笑）。下手すると50くらい叩いてしまう。

——それは体力の問題ですか？それとも意識の問題？

福田 意識しちゃうんだな。最初にエージシートを出せたときも、我孫子（ゴルフ倶楽部）で16番をガードバンカーから1mに寄せてバーを取ったところで、同伴競技者から「もう

これでエージシーターのお祝いできますね」と言われたら、途端に、それまで3オーバーくらいだったのが、17番、18番をダボとボギーだよ（笑）。だから、もう1ホール前で言われたら、できなかつかもしれん（笑）。

——意識するとゴルフが変わるんですね。

福田 自分では意識したつもりはないけど、体がそうなるんだろうね。

——ということは、エージシートのカギは技術的なことではなく、精神面なんですね。

福田 でしょうね。だから、1回やったあとは



樂ですよ（笑）。その後は毎年1回くらいのペースでやってたからね。

——最も最近は、2年前（平成19年）ですか。我孫子ゴルフ倶楽部の赤チョッキ杯（70歳以上の倶楽部メンバー競技）で、90歳で87ストロークですね。

福田 エージシートには運も必要ですね。そのときは、2～3mのパットがほとんど入った。それくらいのパットは入りそうで入らないのが我々のゴルフだから、それがほとんど入ったのは運ですよ。それと、そのときはたまたま初対面の人ばかりの組でプレーしたもんだから、多少緊張しながらのプレーで、それが良かったみたいだね。知ってるメンバーの組だったら、最近はチャラケちゃって（笑）。だから、去年の赤チョッキ杯は100打ったよ。

——エージシートというのはゴルファーの大きな憧れなんですが、達成された先輩からエージシートを出すためのアドバイスをいただきたいのですが。

福田 なんだろうね。まあ、はっきりと言えるのは、一度出すことだね（笑）。そうしたら、後は楽だ。

——ははははっ。

福田 私も70代のときは、欲しくて欲しくてしようがなくて……。しかも午前中は30台で回って、今度こそって思ったら、午後はガタガタになる、というゴルフを10年間続けた末ですからね。やっぱり「欲しい欲しい」という思いをあんまり強く持たないことかな。

——それほど悔しい思いを10年間も耐えて、そして挑戦し続けたご褒美だったんじゃないですか？

福田 そうかもしれないね。それでゴルフに夢中になったお陰で、こうやって健康を維持できましたしね。

——本当に91歳とは思えませんね。健康のためのゴルフという意識はおありだったんですか？

福田 最初は競技志向だったからそんな思いは



なかったですね。ただ、こうやって元気でいられるのはゴルフのお陰だし、そのゴルフをできるだけ多くの人に楽しんでもらうには、皆が皆、競技志向でなくてもいいんじゃないかな、もう少しラフに楽しんでもらってもいいんじゃないかなと考へようになり、それで東京都で一番最初に千代田区ゴルフ協会を作ったんだ。

——それも、競技ゴルフに打ち込んで来られたからこそ、そうした思いに至ったんでしょうね。

福田 そうね。これはエージシートに限ったことでも、ゴルフに限ったことでもないけど、私は皆に「テーマを設定して生きなさい」と言っているんです。1週間単位でも、半年単位でも、1年単位でもいい。私の場合は、1週間後の次のゴルフの目標を立ててきたけど、それぞれ何でもいいんだよ。成し遂げたい目標を、ただし漠然とした目標ではなく、具体的な目標を立て、それをいつまでに必ず達成するという気迫を持って取り組むことですね。

——そうやってゴルフに取り組んできた末のエージシートだったんですね。

福田 そうなんでしょうね。それと、さっきも出た話だけど、健康だね。その健康を維持するためには、「予防にお金をかけなさい」ということは声を大にして言えますね。

——今日は貴重なお話をうかがいました。どうもありがとうございました。

# 関東ゴルフ連盟 「マナーポスター」配布のお知らせ



広報委員会ではこの度、ゴルファーにマナーの向上を呼び掛ける「マナーポスター」を作成いたしました。

かねてより広報委員会では、最近のゴルファーのマナー低下が大きな問題として取り上げられていました。特に「スロープレー」と「相応しくない服装」の問題は多くの俱楽部で、特異なケースではなく、恒常化しつつある深刻な問題として対策が急がれる状況となっています。そのため、独自にポスターや貼り紙等を作って掲示する俱楽部も少なくありません。

そこで広報委員会では、ゴルファーの注意を喚起する、より効果的なマナー・ポスターを作る事を決定しました。関係各所に相談したところ、「(株)博報堂DYスポーツマーケティング」の協力のもと、諸見里しのぶプロがボランティアでの出演を快諾していただきました。そこで、去る3月23日、諸見里プロの活動拠点である江連忠プロ主宰の「江連忠ゴルフアカデミー」、並びに同アカデミーの所在地「六甲国際ゴルフ俱楽部」において撮影をし、2種類のポスターを作成いたしました。

いうまでもなく「エチケット&マナー」はゴルフの伝統と文化の根幹であり、その低下は、ゴルフの存在意義を危うくするものです。

KGAは、俱楽部の健全な発展をバックアップしていきます。どうぞ、今回の「マナーポスター」をご活用ください。

## 第61回通常総会議事録

日 時 平成21年2月20日（金）

午前10時

場 所 ホテルニューオータニ

麗の間

吉田理事長が議長になり、加盟498俱楽部中、委任状を含め322俱楽部の出席となり、適法に成立した旨の報告の後、議事録署名者として、篠崎勝宏常務理事、川田太三理事を指名し、総会の開催を宣言した。

## —決議事項—

## 第1号議案

「平成20年度事業報告」並びに「一般会計・特別会計収支決算（案）」の承認の件  
議長の指名により、事務局より活動内容及び決算項目につき説明がなされ、一般・特別両会計の決算報告の後、近藤監事の監査報告がなされ、原案どおり承認された。

## 第2号議案

「平成21年度事業計画」並びに「一般会計・特別会計収支予算（案）」の承認の件  
議長の指名により、高橋総務委員長より予算編成の基本方針並びに一般会計・特別会計の具体案の説明がなされ、昨今の経済情勢の悪化もあり本年度の予算収支は、ほぼ均衡になることが報告された。一般会計・特別会計の予算案については事務局より報告がなされ原案どおり承認された。

## 第3号議案

「役員任期満了に伴う改選の件」  
議長より平成20年11月18日の常務理事会において、連盟規約細則第1条に基づいて選任された11名の各都県理事候補推薦委員より、推举された次記52名の理事候補者、並びに規約

細則第2条により理事会にて現理事長・副理事長に一任とされた学識理事10名、監事2名の氏名が発表され、承認された。

新潟県選出の理事

伊藤文吉・遠藤栄松・斎藤文志郎・牧野庄三

長野県選出の理事

小坂健介・下条進一郎・高澤克治・宮坂久臣

山梨県選出の理事

稻川廣政・志村和也・山田守郎

群馬県選出の理事

相澤伸幸・貫井忠彦・萩原剛・発知洋一

栃木県選出の理事

荒井祥・佐々木靖雄・篠崎勝宏・篠崎暢宏・高橋利之・中島篤志・福嶋寿克

茨城県選出の理事

安藤修一・海老原寿人・黒澤長利・田熊典敏・塚原裕・平山誠一・村山政志

埼玉県選出の理事

池谷正成・諫山達・神田光三・高橋正孝・竹田恒正

千葉県選出の理事

牛込公一郎・小宮山義孝・塙本清土郎・富田浩安・早川恒雄・平岩健一・渡邊満之助

東京都選出の理事

後藤仁・佐藤敏明  
神奈川県選出の理事  
相山武靖・五味丈夫・廣幡忠淳・松本富夫

静岡県選出の理事

伊藤淳・木村玄一・野村茂総・福田豊・前川昭一

学識理事

井上裕之・岩宮浩・大鷲俊朗・岡田光正・川田太三・関根宏一・相馬和胤・田村圭司・内藤正幸・中野弘治

監事

近藤 瞰・浜口勝郎

続いて議長は、総会議事を中断、新理事による理事長互選の為の理事会の開催を指示、別室において新理事の互選により、新理事長に竹田恒正氏が推挙され、承認された。

その後、総会が再開され、吉田理事長より新理事長に竹田理事長が選任された報告がなされ、吉田理事長より退任の挨拶の後、議長が竹田理事長に交代され就任の所信表明の後、議事が再開された。

## —報告事項—

## ①関東ゴルフ連盟「入会細則・委員会細則」改正報告の件

議長の指名により、事務局より連盟運営をより適正にするために行った今回の細則改正の主旨説明、及び以下の改正点につき詳細な説明報告がなされた。

①入会細則 第7条の改正

②委員会細則 第5条の改正

## ②財日本ゴルフ協会「平成20年度事業報告及び決算報告」並びに「平成21年度事業計画及び予算」に関する件

議長の指名を受け、事務局より次の報告がなされた。

「平成20年度事業報告及び決算報告」並びに「平成21年度事業計画及び予算」は、財日本ゴルフ協会理事会において承認され、加盟俱楽部に送付済であるとの報告がなされた。

## ③財日本ゴルフ協会「平成21・22年度理事・監事候補選任」に関する件

議長より、平成21年2月20日の総会後に行われる理事会において選任する旨の説明があり承認され、候補者を財日本ゴルフ協会に推薦することの報告がなされた。

以上、全ての上程議案の決議を終了し、

議長11時50分閉会を宣した。  
なお、総会修了後、懇親パーティーが報道関係者を迎えて盛会裡に行われた。

### 平成20年度 第3回常務理事会議事録

日 時 平成20年11月18日（火）正午  
場 所 グランドアーケ半蔵門  
トバーズ  
出席者 吉田理事長、  
尾関・竹田両副理事長  
相澤、伊藤、稲川、岩宮、大原、  
齋藤、篠崎、高橋、塙原、野口、  
広中、宮坂渡邊各常務理事  
定刻、吉田理事長が議長を務め開会を宣した。  
事務局より理事長、副理事長、常務理事17名中、委任状を含め出席者16名となり、適法に成立した旨の報告の後、議事録署名者として、野口正三、広中三男両氏を指名し順次議題審議を行った。

#### —討議及び決議事項—

##### ①加盟審査に関する件

- (1)加盟審査俱楽部について  
●「クリスタルカントリークラブ」  
(群馬県)  
相澤常務理事（太田双葉カントリークラブ）、赤城国際カントリークラブの推薦を受け、正会員への加盟が承認された。

- (2)退会俱楽部について  
●「アジア下館カントリー倅樂部」  
(茨城県・正会員)の退会届を受理し、退会を承認した。

- (3)退会勧告倅樂部  
平成19年、20年度の年会費未納倅樂部の「ルーセントカントリークラブ」(新潟県)について事務局より報告があり、来る平成21年1月26日（水）に開催される第4回理事会において退会の勧告を決議する事が承認された。

##### ②平成20年度一般会計・特別会計決算案ならびに平成21年度一般会計・特別会計に関する件

- (1)平成20年度一般会計・特別会計決算案について  
加藤事務局長より、10月末時点での確定事項ならびに予定額を考慮した決算案について説明がなされ承認された。

- (2)平成21年度一般会計・特別会計予算案について  
加藤事務局長より、来年度の活動計画に基づき策定された予算案について説明がなされ理事会に上程される事が承認された。

##### ③平成21年・22年度各都県理事候補推薦委員選任に関する件

- 理事長より以下の推薦委員の指名がなされ、承認された。

- 新潟県：齋藤文志郎  
長野県：宮坂久臣  
山梨県：稲川廣政  
群馬県：相澤伸幸  
栃木県：広中三男  
茨城県：塙原 裕  
埼玉県：高橋正孝  
千葉県：渡邊満之助  
東京都：森川幸美  
神奈川県：岩宮 浩

- 静岡県：伊藤 淳  
なお、「連盟規約・細則」に従い、委員は各都県別に加盟倅樂部代表者会議を開き、議事録を添付して報告書を提出することとなった。

##### ■政策小委員会関係

###### (1)各都県に対する調査に関する件

- ①都県アンダーハンディキャップ選手権競技について  
事務局より各都県のアンケート調査の説明があり、平成21年度

れた。

##### ④平成21年度分科委員会・部会委員候補推薦に関する件

- 加藤事務局長より標題の件につき説明がなされ、「連盟規約」に法り、理事長・副理事長・常務理事・理事・分科委員長に分科委員推薦依頼をすることとした。また、推薦の期限については、平成21年1月13日とすることとした。

##### ⑤総務委員会及び政策小委員会に関する件

- 総務委員会関係  
高橋常務理事より総務委員会及び政策小委員会について以下の報告及び提案がなされ討議された。

- (1)加盟倅樂部年会費について  
加盟倅樂部年会費の減額について報告がなされ、来年度以降も継続審議されることが確認された。

##### (2)資金運用について

- 普通預金の一部を普通預金から大口定期預金へ預入れ変更することが承認された。

##### (3)特別顧問会発足について

- 「特別顧問会」の名称については承認され、有資格者については継続審議されることが確認された。

##### (4)関東支那人会連絡協議会設立について

- 総務委員会の一部会として設立されることが検討され継続審議することが確認された。

##### (5)設立準備世話役平林平治氏（諒訪湖カントリークラブ）との折衝は事務局に一任されることが確認された。

##### ■政策小委員会関係

###### (1)各都県に対する調査に関する件

- ①都県アンダーハンディキャップ選手権競技について  
事務局より各都県のアンケート調査の説明があり、平成21年度

より共催を実施する都県団体は3県であることが確認された。

共催実施県は以下の通り。

- 新潟県
- 埼玉県
- 神奈川県

②都県女子倅樂部対抗実施について報知新聞社との共催で実施することを検討することが承認された。

##### (2)関東オーブンに関する件

高橋常務理事より説明があり、資金調達が厳しい状態でもあり一時凍結する旨の報告がなされた。

##### (3)日本パブリックゴルフ事業協会からの依頼について

事務局よりパ協からのシード枠増加依頼について説明があり、来年度は現況通りのシード枠を付与し、来年度以降の審議課題にすることが確認された。

##### ⑥体協委員会に関する件

岩宮常務理事より、体協委員会及び都県アマ団体連携強化についての報告がなされた。

また、都県競技からの関東アマ決勝シード権において、都県競技優勝者に関東アマ決勝シードの資格がない場合は次位者を繰り上げることを競技委員会で審議することが確認された。

##### ⑦平成21年度関東倅樂部対抗に関する件

事務局より各都県の予選競技開催方式を報告して頂く旨の報告がなされた。また、参加倅樂部数が30倅樂部に満たない都県の開催コースの増加は認められるが、コース使用料は1コース使用料分を振分けることが承認された。

##### ⑧月例競技委員会に対する関東アマ決勝競技シード枠に関する件

月例競技からの平成21年度関東アマ決勝競技シード枠については25人とし、平成22年度よりシード枠を14人

にすることが承認された。

##### ⑨「J-sys」JGA移管に関する件

理事長より説明がなされ、JGAより譲渡金2,500万円（@¥500万円/年）と登録料（未来永劫）50円/1人（実績予測10万人×50円/人）に決定する見込みであることが報告され承認された。

##### ⑩日本ゴルフ協会 個人会員入会審査に関する件

10月31日現在、申請のあった84名を承認した。

##### ⑪後援依頼に関する件

次の2競技の後援が承認された。

- ①第21回山梨県アマチュアゴルフ選手権大会
- ②第27回日刊アマ関東ダブルスゴルフ選手権

##### ⑫その他

- (1)平成21年度日本オーブン及び日本女子オーブンへの広告支援の件
- 次の2競技への広告支援の件

●平成21年度日本オーブン：武藏カントリークラブ豊岡コース

- 平成21年度日本女子オーブン：我孫子ゴルフ倅樂部

##### (2)会議開催予定の件

事務局より、今後の各会議の日程及び会場の確認がなされた。

全議事終了後、吉田理事長が閉会を宣した。

川田、神田、木村、小坂、後藤、五味、小宮山、斎藤、佐々木、佐藤、篠崎（勝）、篠崎（暢）、志村、下条、関根、相馬、高澤、高橋（利）、高橋（正）、田熊、田村、塙原、塙本、富田、内藤、中島、中野、貫井、野村、平岩、平山、廣幡、福田、発知、前川、牧野、松本、宮坂、村山、山田、渡邊各理事  
近藤、浜口両監事

定刻、竹田理事長が議長を務め開会を宣した。

事務局より理事62名中、委任状を含め62名の出席となり、適法に成立した旨の報告の後、竹田理事長より議事録署名者として、相澤、安蔵両理事が指名され、順次議題審議を行った。

#### —討議及び決議事項—

##### ①平成21年・22年度副理事長・常務理事並びに特別顧問選任に関する件

選任は理事長一任となり以下のとおり承認された。  
副理事長(2名)：高橋正孝、富田浩安  
常務理事(13名)：相澤伸幸、伊藤淳、小宮山義孝、斎藤文志郎、佐藤敏明、篠崎勝宏、志村和也、相馬和胤、塙原裕、内藤正幸、廣幡忠淳、宮坂久臣、渡邊満之助

特別顧問(2名)：吉田友明、尾関秀夫

##### ②平成21年・22年度分科委員長・部会長選任に関する件

選任は理事長一任となり、次の諸氏が推薦され承認された。

- 総務委員会：小宮山義孝
- カード部会：篠崎勝宏
- 競技委員会：内藤正幸
- 規則部会：田村圭司
- コース選定部会：内藤正幸
- ハンディキャップ委員会：関根宏一
- コース・レート委員会：岡田光正
- 月例競技委員会：中野弘治

### 平成21年度 第1回理事会議事録

日 時 平成21年2月20日（水）

12時55分

場 所 ホテルニューオータニ  
舞の間

出席者 竹田理事長、

相澤、相山、荒井、安蔵、池谷、諫山、伊藤（淳）、稻川、井上、岩宮、海老原、大鷺、岡田、

●ジュニア育成委員会：大鷲俊朗

●広報委員会：塚原裕

●税対策委員会：井上裕之

●グリーン委員会：平山誠一

●体協委員会：岩宮浩

③平成21年度分科委員選任に関する件  
選任は理事会修了後に開催される  
「第1回正副理事長・委員長会議」に  
一任された。

④財日本ゴルフ協会 平成21年・22  
年度理事・監事候補選任に関する件  
選任は理事長、副理事長に一任された。

⑤財日本ゴルフ協会 平成21年度委員  
会委員候補選任に関する件  
選任は理事長、副理事長に一任された。

⑥平成21年度関東ゴルフ連盟主催競技  
大会長選任に関する件  
選任は各都県常務理事に一任され、  
3月3日までに事務局に報告すること  
となった。

⑦平成21年度関東アンダーハンディ  
キャップゴルフ選手権開催に関する件  
事務局より説明があり以下の2点の  
依頼事項の報告がなされた。

(1)参加者増加の為に各都県の常務理  
事・理事が各都県内の支配人会に  
積極的に働きかけて協力を得る。  
(2)開催会場及び大会会長の事務局へ  
の報告期日を3月19日(木)とする。  
また、各都県アマチュア団体との  
連携により、埼玉県では2週間早  
い予選競技開催の報告がなされた。

⑧財日本ゴルフ協会 個人会員入会審  
査に関する件  
2月20日現在、申請があった19名を  
承認した。

⑨後援競技に関する件  
2月20日現在、申請があった15競技  
を承認した。

⑩その他  
事務局より、本年度の常務理事会、  
理事会等の開催日程の報告がなされた。  
全議事終了後、竹田理事長が閉会を宣

した。

### 平成20年度 第3回理事会議事録

日 時 平成20年11月26日（水） 正午

場 所 グランドアーク半蔵門

富士東の間

出席者 吉田理事長、

尾関・竹田副理事長

相澤、伊藤、稻川、岩宮、

齊藤、高橋、塚原、野口、

渡邊各常務理事

安藤、伊藤、牛込、海老原、

大鷲、木村、黒澤、小坂、後藤、

五味、小宮山、佐々木、

篠崎(暢)、志村、下条、高澤、

高橋、田村、富田(浩)、中野、

萩原、平岩、平山、福田(彰)、

福田(農)、前川、牧野各理事

近藤・廣瀬監事

定刻、吉田理事長が議長を務め開会を  
宣した。

事務局より理事59名中、委任状を含め  
59名の出席となり、適法に成立した旨  
の報告の後、議事録署名者として、齊  
藤常務理事、後藤理事を指名し、順次  
議題審議を行った。

(1)開催会場及び大会会長の事務局へ  
の報告期日を3月19日(木)とする。

また、各都県アマチュア団体との  
連携により、埼玉県では2週間早  
い予選競技開催の報告がなされた。

①加盟審査について

2月20日現在、申請があった19名を  
承認した。

②後援競技に関する件

2月20日現在、申請があった15競技  
を承認した。

③その他

事務局より、本年度の常務理事会、

理事会等の開催日程の報告がなされた。

全議事終了後、竹田理事長が閉会を宣

した旨報告された。

(2)退会について

事務局より、本会議に先立ち開催  
された第3回常務理事会において  
「アジア下館カントリー倶楽部」(茨  
城県)の退会承認された旨報告さ  
れた。

(3)平成19年、20年の年会費未納倶楽

部について事務局より報告があ  
り、本年12月末日までに未納の場  
合は、来る平成21年1月21日に開  
催される第4回理事会において退  
会の勧告を決議することが承認さ  
れた。

②平成20年一般会計・特別会計決  
議案ならびに平成21年度一般会計・  
特別会計予算案に関する件

(1)平成20年度一般会計・特別会計決  
議案

事務局より、10月末時点での確定  
事項ならびに予定額を考慮した決  
議案について説明がなされ承認さ  
れた。

(2)平成21年度一般会計・特別会計予  
算案

事務局より、来年度の活動計画に  
基づき策定された予算案について  
説明がなされ承認された。

なお、特別会計の事務負担金を  
20%から6%（売り上げ比率）に  
引き下げることが報告された。

最後に、(1)・(2)について、最終的  
に第4回理事会で審議するこ  
とが確認された。

③平成21・22年度各都県理事候補

推薦委員に関する件

事務局より、標題推薦委員につき、  
本会議に先立ち開催された第3回常  
務理事会で以下の諸氏が選任された  
旨の報告がなされ、これを確認した。

新潟県：齊藤文志郎

長野県：宮坂久臣

山梨県：稻川廣政

群馬県：相澤伸幸

栃木県：広中三男

茨城県：塚原 裕

埼玉県：高橋正孝

千葉県：渡邊満之助

東京都：森川幸美

神奈川県：岩宮 浩

静岡県：伊藤 淳

なお、「連盟規約・細則」に従い、  
委員は各都県別に加盟代表者会議を

開き、議事録を添付して報告書を提  
出することが確認された。

また、学識理事の推薦に関しては「連  
盟規約・細則」に従い、理事長及び  
副理事長に一任されることが確認さ  
れた。

④平成21年度分科委員会・部会委員  
候補者推薦に関する件

事務局より、標題の件につき説明が  
なされ、「連盟規約」に法り、理事  
長・副理事長・常務理事・理事・分  
科委員長に分科委員推薦依頼する  
ことが確認された。また、推薦の期  
限については、平成21年1月13日と  
することとした。

⑤総務委員会及び政策小委員会に関す  
る件

高橋総務委員長より総務委員会及び  
政策小委員会について以下の報告が  
なされた。

■総務委員会関係

1)資金運用について

普通預金の一部を大口定期預金  
へ預入れ変更することが報告さ  
れた。

2)関東ゴルフ場支配人会連絡協議  
会設立について

総務委員会の一部会として設立  
されることが検討され継続審議  
されることが確認された。

■政策小委員会

1)各都県に対する調査の件

都県アンダーハンディキャップ

選手権競技及び都県女子倶楽部  
対抗競技実施についての説明が  
なされた。

2)関東オープンに関する件

資金調達が厳しい状態でもあり  
一時凍結する旨の報告がなされた。

⑥体協委員会に関する件

岩宮常務理事より、体協委員会及び  
都県アマ団体連携強化についての報  
告がなされた。

⑦「J-sys」JGA移管に関する件

理事長より説明がなされ、JGAより  
譲渡金2,500万円（@￥500万円/年）  
と登録料（未来永劫）50円/1人×登  
録者数で承認されたことが確認された。

⑧その他

1)平成21年度関東ゴルフ連盟主催競  
技日程の件

事務局より、標題の日程の報告が  
なされた。

2)平成21年度日本オープン及び日本  
女子オープンへの広告支援の件

次の2競技開催倶楽部への広告支  
援が承認された。

●平成21年度日本オープン：武藏カ  
ントリークラブ豊岡コース

●平成21年度日本女子オープン：我  
孫子ゴルフ倶楽部

3)会議開催予定の件

事務局より、今後の各会議の日程  
及び会場の報告がなされた。

全議事終了後、吉田理事長が閉会を宣  
した。

野口、渡邊各常務理事、  
井上、牛込、海老原、遠藤、  
大鷲、川田、木村、黒澤、後藤、  
五味、小宮山、佐々木、  
篠崎(暢)、志村、下条、高橋、  
田村、塚本、富田(浩)、中野、  
貫井、萩原、平岩、福嶋、前川、  
牧野、松本、村山各理事

近藤・廣瀬監事

定刻、吉田理事長が議長を務め開会を  
宣した。

事務局より理事57名中、委任状を含め  
55名の出席となり、適法に成立した旨  
の報告の後、吉田理事長より議事録署  
名者として、篠崎常務理事、五味理事  
が指名され、順次議題審議を行った。

### 討議及び決議事項

①加盟申請、加盟資格変更及び退会に  
に関する件

(1)加盟申請について  
相澤常務理事（太田双葉カント  
リークラブ）、グリーンパークカ  
ントリークラブよりの推薦を受け、  
「富岡ゴルフ倶楽部」(群馬県)の  
正会員への加盟が承認された。

(2)加盟資格変更について  
事務局より、「スーザンエルゴルフ  
倶楽部」(千葉県)からの資格変更  
願いについての説明がなされ、平  
成21年度より正会員から準会員へ  
の移行が承認された。

(3)退会について  
「ゴルデンクロスカントリーク  
ラブ」(千葉県)の平成20年度末で  
の退会届を受理し、退会を承認した。

②平成20年一般会計・特別会計収支  
決算(案)及び平成21年度一般会計・  
特別会計収支予算(案)に関する件

(1)平成20年度一般会計・特別会計決  
算(案)について  
事務局より、決算案について説明  
がなされ、総会へ上程することが

## 新規加盟倶楽部紹介

承認された。

- (2)平成21年度一般会計・特別会計予算案について  
事務局より、予算案について説明がなされ、総会へ上程することが承認された。  
また、予算の中で特別会計の事務負担率を現行の20%から8%に引き下げることが承認された。

③「関東ゴルフ連盟」規約入会細則・委員会細則改正（案）に関する件  
高橋常務理事より、入会細則の追加と委員会細則改正の説明があり承認された。

内容は以下の通り。

## 1) 入会細則

第7条

1. 関東ゴルフ連盟の運営方針にそぐわない団体または倶楽部でないこと。
2. 当局が公序良俗に反すると認められた団体または倶楽部でないこと。

## 2) 委員会細則

第5条

理事長は、必要と認めた場合には、加盟正会員及び会員以外の者を、分科委員又は部会の顧問又は参与に選任することができる。

④平成21年・22年度各都県理事候補推薦に関する件  
事務局より、各都県より推薦された理事候補52名の報告がなされ、これを承認し総会に上程することを承認した。

新潟県：伊藤文吉、遠藤栄松、

斎藤文志郎、牧野庄三

長野県：小坂健介、下条進一郎、

高澤克治、宮坂久臣

山梨県：福川廣政、志村和也、

山田守郎

群馬県：相澤伸幸、貫井忠彦、

萩原剛、発知洋一

栃木県：荒井祥、佐々木靖雄、篠崎勝宏、篠崎暢宏、高橋利之、中島篤志、福嶋寿克  
茨城県：安藤修一、海老原寿人、黒澤長利、田熊典敏、塙原裕、平山誠一、村山政志  
埼玉県：池谷正成、諫山達、神田光三、高橋正孝、竹田恒正

千葉県：牛込公一郎、小宮山義孝、塙本清士郎、富田浩安、早川恒雄、平岩健一渡邊満之助

東京都：後藤仁、佐藤敏明

神奈川県：相山武靖、五味丈夫、廣幡忠淳、松本富夫

静岡県：伊藤淳、木村玄一、野村茂繼、福田豊、前川昭一

また、1月15日に開催された正副理事長会議にて推薦された、学識理事10名、監事2名の候補者の報告がなされ、これを承認し、総会に上程することを承認した。

学識理事：井上裕之、岩宮浩、大鷲俊朗、岡田光正、川田太三、関根宏一、相馬和胤、田村圭司、内藤正幸、中野弘治

監事：近藤敏、浜口勝郎

⑤関東女子倶楽部対抗に関する件  
事務局より、関東女子倶楽部対抗開催実施についての開催指針及び内容の説明がなされ承認された。

また、本年度は新潟県8倶楽部、山梨県6倶楽部・埼玉県16倶楽部が開催を予定している旨の報告がなされた。

## ⑥第61回通常総会に関する件

事務局より、標題の件につき日程及び上程議案が報告され、承認された。

## ⑦各分科委員会からの報告に関する件

- 1) ジュニア育成委員会  
大鷲委員長より、ジュニア会員の会員増に伴い、本年度春季ジュニアゴルフスクールの開催会場の増設を行った旨の報告がなされた。
- 2) コース・レート委員会  
大原委員長より、査定後15年を経過した倶楽部の再査定申請状況の報告がなされ、未申請倶楽部については再度その旨を通知し、再査定の徹底を促すことの報告がなされた。

## ⑧財日本ゴルフ協会 個人会員入会審査に関する件

1月21日現在申請のあった20名を承認した。

## ⑨後援競技に関する件

1月21日現在申請があった14競技の後援を承認した。

## ⑩その他

事務局より、本年度の常務理事会、理事会等の開催日程（案）の報告がなされた。

全議事終了後、吉田理事長が閉会を宣した。

## クリスタルカントリークラブ＜正会員＞

住 所／群馬県桐生市新里町鶴ヶ谷609

電 話／0277-74-3000 Fax／0277-74-5759

開 場／平成9年5月1日 理事長／長沼利之

カジュアルで気取らないラウンドを提倡する「クリスタルカントリークラブ」として、3年前にリニューアルオープンしました。

雄大な赤城山麓、桐生市北西部に位置する18ホールの丘陵コースです。変化に富んだ飽きないレイアウト、群馬で一番スムーズで早い高品質グリーンを目指したメンテナンスにより、グリーンは完璧に整備されています。

当クラブの運営は、会員による信任投票により、会員から選ばれる理事、そして分科委員会7組織にて行われます。その活動はクラブ主催競技の運営、ハンディキャップ管理、エチケットマナーの普及と、定期的に開催する会員間の交流・親睦をはかるイベントを開催しています。会員の声を反映するメンバー中心のクラブ運営は、会員から信頼を得ています。

後ろを気にせずゆったりとプレーできる10分間隔スタート、お得なワンカートプラン、エコ割キャンペーン、スペシャルフライデー等、当クラブならではの目白押しプランの数々…、そして薫り高いモーニングコーヒーでのお迎え、プレー後は名湯「吹割温泉・龍宮の湯（給湯）」でゆったりおくつろぎできるなど“よりきめ細やかなサービスの提供”を満喫できるコースです。



## 富岡ゴルフ倶楽部＜正会員＞

住 所／群馬県富岡市下丹下914

電 話／0274-67-4111 Fax／0274-67-4115

開 場／平成3年8月16日

理事長／辻 亨 支配人／黒柳浩一

群馬に代表される上毛三山の一つである妙義山

を遠影に雄大な丹生丘陵に抱かれた緑豊かな自然に調和した開放的なコースです。

自然の地形、木々を最大限に生かした美しい景観とゆったりとしたフラットなホールの四季の織りなす美しさ、洗練されたコースデザインにプレイヤーは挑戦者に駆り立てられるでしょう。

ティグラウンドに立つと広々としたなだらかな曲線で描かれたホールの柔らかく包み込んでくれる様な印象は第1打まで、やさしそうで気の休めないその戦略的で個性的な顔を持つ各ホールが統きます。

安心安全を第一にどなたにでもゴルフライフが満喫できるコースセッティングと電磁誘導カードにより自然の風を感じながらさわやかなゴルフをお楽しみいただけます。

アクセスは東京練馬より98km、富岡インターより6kmの好立地にあり、さらに当倶楽部より軽井沢インターまで30分です。ぜひお越しくださいますようお願い申し上げます。



## 月例競技成績表

〔平成20年度11月月例〕 平成20年11月17日(月) 龍ヶ崎カントリー倶楽部

ランク	スコア	氏 名	俱 樂 部
1	68	金田 崇宏	筑 波
2	69	佐藤 和夫	東 千 葉
3	70	竹石 要佑	筑 波
3	70	鬼澤 友秀	ツインレイクス
5	72	早乙女剛史	皐月・佐野

ランク	スコア	氏 名	俱 樂 部
1	74	南雲 真理	岡 部 チサン
2	74	佐藤 千絵	伊 势 原
3	75	直井 梨瑛	千 葉

※ 優勝はブレーオフによる

〔平成20年度12月月例〕 平成20年12月9日(火) 武蔵カントリークラブ・豊岡コース

ランク	スコア	氏 名	俱 樂 部
1	68	竹石 要佑	筑 波
2	72	中村 貴至	長 潤
2	72	大塚 智之	川 越
4	74	小原 淳	セントラル
4	74	白石 哲也	相 模 原
4	74	中野 正義	富 士 笠 間
4	74	前田 男	岡 部 チサン
4	74	藤田 大	皐月・佐野
4	74	小平 智	鷹
4	74	伊山 祐介	セベ・パレステロス

ランク	スコア	氏 名	俱 樂 部
1	75	青木瀬令奈	白 水
2	78	南雲 真理	岡 部 チサン
3	82	矢嶋 里菜	霞 ケ 間
3	82	田中 博子	ツインレイクス
3	82	鳩田 江莉	アザレア
3	82	田中 真弓	成 田 東

〔平成21年度1月月例〕 平成21年1月13日(火) 相模カンツリー倶楽部

ランク	スコア	氏 名	俱 樂 部
1	69	豊島 豊	東 千 葉
2	72	早乙女剛史	皐月・佐野
3	73	仁木 海渡	鶴
3	73	青木 龍一	東 名
3	73	森田 聰史	G M G 八王子
3	73	小原 淳	セントラル
3	73	閑澤 誠	ツインレイクス
3	73	河村 拓磨	城 里
3	73	室野 歩	東 千 葉

ランク	スコア	氏 名	俱 樂 部
1	79	直井 梨瑛	千 葉
2	80	青木茉里奈	白 水
3	81	内山 久美	新 千 葉
3	81	鳩田 江莉	アザレア

〔平成21年度2月月例〕 平成21年2月9日(月) 袖ヶ浦カンツリークラブ・新袖コース

ランク	スコア	氏 名	俱 樂 部
1	69	竹石 要佑	筑 波
2	71	佐藤 和夫	東 千 葉
3	72	菌田 峻輔	東 千 葉
3	72	早乙女剛史	皐月・佐野
5	73	館 英樹	富 士 笠 間
5	73	水上 晃男	袖 ケ 浦
5	73	澤田 信弘	東 京 五 日 市

ランク	スコア	氏 名	俱 樂 部
1	74	眞尾 万里	上 武
2	77	志賀 友香	塩 原
3	79	鳩田 江莉	アザレア

平成21年6月1日発行 KGA NEWS No.99  
 発行所／関東ゴルフ連盟 〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目18番11号 銀座SCビル4階  
 TEL.03-6278-0005 FAX 03-6278-0008 ホームページ <http://www.kga.gr.jp>  
 発行人／竹田 恒正 編集／広報委員会